

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年3月15日

事業所名 いろ縁びつにじいろ

| | | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 |
|----------|------------------------------------|---|----|-----|---|--|
| 環境・体制整備 | 1 | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である | ○ | | 1階と2階を活用してスペースを確保している | |
| | 2 | 職員の配置数は適切である | ○ | | 送迎場所の組み合わせを検討して、支援に問題が出ないようにしている | 調整しながら送迎を行っているが、まだ難しい日もあるため上手く組み合わせ等を考えて支援にあたる |
| | 3 | 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている | | ○ | 段差解消やクッション材の設置等に対応している | バリアフリー化という視点では引き続き環境整備を進めていける部分がある |
| 業務改善 | 4 | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している | ○ | | 月間活動計画を設定して各職員が計画に基づいて業務を進めている | |
| | 5 | 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている | ○ | | | |
| | 6 | この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している | ○ | | | |
| | 7 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている | | ○ | | 現在、行えていないため今後検討していく |
| | 8 | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している | ○ | | 施設内で研修を行ったり、Zoomを活用した研修を開催している | |
| 適切な支援の提供 | 9 | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している | ○ | | 面談を行い、保護者様の意向や主訴を元に個別支援計画の作成に取り組んでいる | |
| | 10 | 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している | | ○ | | 研修を通して学んではいるが、本格的に事業所として適応できてはいないので今後積極的に進めていく |
| | 11 | 活動プログラムの立案をチームで行っている | ○ | | 主任が中心となり、必要に応じて意見を聞いて立案を行っている | |
| | 12 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫している | ○ | | 今までの活動を確認しながら固定化しないようにしている | 固定化が進まないようにプログラムの立案について各職員が中心となるような仕組み作りを進める |
| | 13 | 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している | ○ | | | 平日や長期休暇の活動時間によって目的を持った活動設定をしていく |
| | 14 | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している | ○ | | 職員間でケース会議を行ったり、保護者様と面談をして支援計画を作成している | |
| | 15 | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している | ○ | | 朝礼の時間を使って一日の流れを確認したり、日案を元に事前に共有できるようにしている | |
| | 16 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している | | ○ | 送迎時間の関係もあり、終礼を行っていないため次の日の朝礼時に前日の振り返りも行っている | 終了後の振り返りについてどうやったらやっていたのかを検討して実施していく |
| | 17 | 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている | ○ | | 支援記録の記載を行い、確認をしながら継続的な支援に繋げている | |
| | 18 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している | ○ | | 保護者様との面談を定期的に行い、見直しについて確認をしながら判断をしている | |
| 19 | ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている | ○ | | | 定期的にガイドラインについて確認をして支援の在り方について検討していく | |
| | 20 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している | ○ | | 管理者や児発管が参加。事前にケース会議等で情報共有をして伝達している | 担当者会議でも情報を取得できるように積極的なアプローチを行っていく |
| | 21 | 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている | ○ | | 学校から下校時刻表を頂いたり、送迎時に変わったことがないかなど様子を確認している | |

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年3月15日

事業所名 いろ縁びつにじいろ

| | | | | | |
|--------------|------------|--|----------------------------------|--|--|
| 関係機関や保護者との連携 | 22 | 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている | ○ | 契約時に情報を頂いている。また、状況が変化した場合等に定期的に情報共有をしている | |
| | 23 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている | ○ | 就学時に児童の様子や状態についてやり取りを行い、情報共有をしている | 情勢を見ながら実際に施設を訪問して視覚的に情報共有や相互理解ができると良い |
| | 24 | 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している | ○ | | |
| | 25 | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている | ○ | 電話での連携をとっている | 連携はとれているが、研修についてはまだまだ不足している部分であるため機会を持つことができるようにしていく |
| | 26 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある | ○ | 戸外活動時に一緒に活動することがある | 児童館等でも活動の機会が持てるように検討したい |
| | 27 | (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している | ○ | 開催時には積極的に参加している | 新型コロナウイルス感染症防止の観点から開催自体が少なくなっているが、Zoom等の別の形などで情報共有・意見交換をできたらよい |
| | 28 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている | ○ | 連絡帳でのやり取りや送迎時のお話を中心に状況の確認を行っている | |
| | 29 | 保護者からの対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている | ○ | | ペアレントトレーニングについて職員がしっかりと学び、保護者様にとって必要な支援を行っていく |
| | 保護者への説明責任等 | 30 | 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている | ○ | 契約時に保護者様と確認をしながら説明を行っている |
| 31 | | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている | ○ | 面談時や必要に応じて相談を受ける機会を作り、支援を行っている | |
| 32 | | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している | ○ | | 今後、情勢を見ながら検討していく |
| 33 | | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している | ○ | 苦情受付について周知を行っている。さらに実際には苦情があった場合には職員間で共有・協議をして迅速な対応をしている | 職員間では対応が難しいとなるケースもあるが、その際には上司に相談して指示を仰いでいる |
| 34 | | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している | ○ | おたよりやブログ更新、アルバムなどで伝えている | |
| 35 | | 個人情報に十分注意している | ○ | 鍵付きキャビネットを使って個人情報の保管を行っている | |
| 36 | | 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている | ○ | 伝え方に配慮して保護者様とのやり取りを行っている | |
| 37 | | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている | ○ | | 社会性の向上にも繋がるので、実施を検討していく |
| 非常時等の対応 | 38 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している | ○ | 施設内に掲示しており、保護者様には契約時に一緒に確認しながら説明している | 定期的に確認の必要があるため、機会を作っていく |
| | 39 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている | ○ | 月に一回程度、火災・水害・不審者等で条件を変えて訓練を実施している | |
| | 40 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている | ○ | 虐待防止研修を施設で行っている | 新しく入社した職員に対して研修を行えるとよい |
| | 41 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している | ○ | 必要な場合には、事前の了承をもらうことと支援計画への記載を徹底している | |
| | 42 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている | ○ | 事前に情報共有を行い、アレルギー表を作成して掲示している | |
| | 43 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している | ○ | 事前に情報共有を行い、アレルギー表を作成して掲示している | ヒヤリハットが発生した際に書面に残し話し合いを行っている |